

西大芦地区

人口	男	312人	女	368人	計	680人	世帯数	298世帯
----	---	------	---	------	---	------	-----	-------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

① 宅配弁当および農村食堂運営事業【福祉】

高齢者世帯や独居老人に宅配する弁当を作る。

地元特産品を使った仮設の農村食堂を試行的に開設する

ふるさとづくり協議会等主催の生涯学習事業の会場として活用する

施設賃借料、光熱水費、消耗品費、

② 大芦川流域活用事業【観光】

旧西大芦小学校校庭に「川遊び駐車場」を開設し、ごみ放置や迷惑駐車などの環境維持対策に取り組む。大芦川流域資源の掘り起こし、地区の内外の人に知らせ、交流する。

環境保護のため、川遊び客用のトイレを管理する。

駐車場用地賃借料、流域資源案内看板設置、テント2張り

③ 農産物市事業【農業】

高齢者世帯や独居老人地元農産物や特産品の展示や直売を行う。地域住民のふれあいの場所づくりをする。鹿沼南高校の生徒等、農作物を通じた交流の機会を作る。ふるさとづくり協議会等主催の生涯学習事業の会場として活用する。ふるさと農園の管理運営の協力をする。

のぼり旗、電気柵、パソコン、耕運機、倉庫兼直売所整備工事

《収支決算》

【収入(円)】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	600,000	1,739,118	1,727,779	2,431,607	3,660,230	10,158,734
その他補助金	0	0	0	0	0	0
自己資金	0	13,588	3,476,309	7,910,235	323,872	11,724,004
計	600,000	1,752,706	5,204,088	10,341,842	3,984,102	21,882,738

【支出(円)】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	791,026	3,281,812	4,113,241	965,102	9,151,181
事業②	600,000	961,680	1,885,163	4,283,873	632,399	8,363,115
事業③	—	—	37,113	1,944,728	2,386,601	4,368,442
計	600,000	1,752,706	5,204,088	10,341,842	3,984,102	21,882,738

《事業への取り組みを振り返って》

(1) 宅配弁当および農村食堂運営事業

高齢化率約50%、独居老人や高齢者世帯が増す中、見守りも併せて始めた弁当の宅配は、7人の素人主婦が試行錯誤しながら「お母さんの味」を届けようとスタートした。当初は約90食の弁当が配達時間までに出来上がらず、配達スタッフがヤキモキすることもあったが、今は約120食を配達時間前に仕上げるようになり、手際よくこなし味も多くの人に喜んでいただけるようになった。

お年寄りは週1回の弁当を楽しみに待っていてくれるだけでなく、配達に来るスタッフとのコミュニケーションが楽しみで、笑顔で迎えてくれる。その笑顔からスタッフは元気をもらい、活動のエネルギーとなっている。また、配達時にお年寄りの様子がいつもと違うことに気付き、登録してある家族に連絡して来ていただいたことが何回かあった。大事には至らなかったことが何よりも嬉しい。

また、高齢者に喜んでもらえる内容にするために、毎月献立会議で議論を重ねてきた。特にマンネリ化しないように常に新しいメニューを開発したり、仕入れの工夫をしたりした。更により安全な弁当を届けるために保健所の指導や研修会への参加も怠らなかった。

最近はいろいろな団体や会社、学校などからの特別弁当依頼も受注するようになったり、毎月開催の西大芦農産物市で焼きそばや総菜の販売を始めたりするなど、収益アップを狙って経営を安定化させる努力をしている。

まったく経験も資金も無い素人団体が始めた事業を、物心両面から支えてくださった市の関係者と“地域の夢実現事業”というサポート事業には感謝の一言に尽きる。

もう一つの西大芦特産品を活用した農村食堂の開店は大きな目標であり、地域住民のふれあいの場としてまた訪れる観光客等との交流の場として実施したいが、スタッフ不足や新型コロナ禍中の経営不安等の課題も多く、更なる検討をしていきたい。

(2) 大芦川流域活用事業

旧小学校前の県道が水遊び客の迷惑駐車であらゆる交通に支障をきたしている状況を改善しようと始めた駐車場事業だが、“地域の夢実現事業”によって大芦川流域の環境保全への取組と流域の歴史等資源の掘り起こし、及び看板の設置ができた。

Web ホームページ「清流の郷にしおおし～西大芦の川遊びガイド」を開設して川遊びマナーやお願い事、駐車場の開設情報等を発信してきた。併せて川遊び場所での利用者へのアナウンスやごみの処理、トイレの管理を行うことで、旧小学校付近の環境が改善するとともに家族単位のマナーを守る水遊び客が増加した。しかし、他の場所では外国人や傍若無人な若者の迷惑駐車、ごみ放置、糞尿の問題が大きな課題となってきたため、令和3年度より東大芦地区と共同での大芦川創生事業がスタートしたことは大変ありがたい。

駐車場事業は収益が天候に左右されるため、補助事業終了後の経営面での不安定さや、高齢者のスタッフが炎天下の校庭で一日中働かなければならないという過酷さ、またスタッフ不足も今後の課題である。

次に、西大芦地区は過疎化・高齢化・少子化が急速に進んだために、祭などが簡略化されたり廃止されたりしてきた。また地区内史跡等についても説明できる人がいなくなってきた。そのため、観光客のみならず地元住民にも地区内の歴史・文化を知ってもらうことが必要と考え、毎年5～6カ所、計22カ所に案内板や説明看板を設置してきた。日頃から見慣れていた社寺や学校跡地などであるが、改めて看板に目を通す住民も増え、県外ナンバーの車が停まって看板を見ている姿も見かける。特に地元で育つ若者に地元の歴史・文化を伝えていくことができるのではないかと大いに期待している。今後はこれまで集めた資料を基に、冊子にまとめたり看板設置場所を地図に落としたパンフレットを作成したりして、多くの人々に手にしていただけるよう工夫していきたいと考えている。

(3) 西大芦農産物市開催事業

昔はたくさんあった商店も、今は日用品を買えるお店は 1 店舗になった。そんな地域で暮らす地域住民、特に高齢者は買い物難民と言っても過言ではない状況にある。そんな住民の役に立ちたい。また大芦川流域に沿って成る西大芦地区は東西に細長い地域であるため、地域の人々が会う機会も少なく、みんなが集える場所をつくりたいとの思いから農産物市を学校跡地で開催しようと始めた事業である。始まった当時は新型コロナの心配もなく、買い物をした住民が用意したテーブルを囲みお茶を飲みながら談笑する姿にほっこりした思いが懐かしい。

この事業で最も苦労したことは開催会場の準備と後片付けである。2年数か月間はテントを立てて会場を準備した。会場づくりに多くに人手がかかる他に風雨にも悩まされた。その後、廃校の一輪車置き場の屋根を利用しようということになったが、狭すぎるためにみんなで協力して下屋を増設した。会場の準備には苦労が多かったが、これらの課題を解決するたびにメンバーの団結力が強くなっていったことは嬉しかった。

また、地区内では農業を営む人が少なくなり十分な品数が集められなかった。そこで隣接する東大芦地区の生産者に出荷を依頼して野菜を集めてきたり、市東部や日光市の知り合いの農家にも協力をしてもらい集荷して来たりして、地域の人々の需要に応えようとするスタッフの奉仕の精神と意気込みには敬服した。

スタート時の会計は電卓をたたき、決算も商品から取り外した値札を出荷者毎に分類し、電卓をたたいて出荷者に売上金を払っていたが、労力もかかるし計算ミスも出てしまう。レジが欲しいという声が上がリ、調べると農産物直売に使えるレジは 100 万円もする上に毎年のメンテナンス費用も生じる。そのため購入をあきらめ、パソコンでプログラムして会計レジを工夫した。メンバーがメンテナンスを行えるパソコンレジは大変ありがたい存在である。

そして、最後の“地域の夢実現事業”として、店舗の建設を計画し承認いただき、今年 1 月にオープンできたことに会員一同感謝と喜びにあふれていた。予算不足から電気工事は後日メンバーの中の電気工事士が蛍光灯と換気扇を取り付け、交代で持ち寄った発電機をつないで使うなど、節約した取り組みをしている。会場づくりに苦労し風雪雨に悩まされた 2 年 9 か月だったが、これからは安心して開催できることに感謝している。そして新型コロナウィルス感染症が終息し、地域住民のみならず観光客などとの交流の場として、多くの人々が集い活気に満ちる日が来ることを待ち望んでいる。

最後に、農産物市開催日の10日前に必ず会議を行い、実施方法や出荷物の打合せをしたり、その時々課題について議論したりして改善してきた。毎回、課題解決に向けた建設的な意見が出され、活気に満ちていた。大工や、鉄骨プレハブ業者、電気工事士、パソコンに精通している人等がそれぞれの特技を生かし、メンバーがそれを手伝って取り組むことで、会員の団結力が益々強くなっていったように思う。

地区外からの作物搬入者が開店準備をしている私たちを見て、帰宅後家族に「西大芦農産物市のスタッフはすごく生き生きとしていた。」と語っていたと伝え聞いた。そう見えたことに喜びと誇りを感じる。



川遊び駐車場



お弁当と思いやりを届けます



史跡案内板



ふるさと農園の風景



子どもたちも頑張りました



地域の思いが詰まった新しい直売所